

2021. 4. 4. 主日礼拝説教
聖書：ヨハネによる福音書 20章 11～18節
『後ろを振り向きなさい』

▼わたしたちは、今までにあった嫌なことや恥ずかしい失敗は出来るだけ早く忘れて、過ぎたことはクヨクヨ考えずに前向きになって生きて行こうと考えます。つまり、過去のことは振り返らず未来に向かって歩むことこそ肯定的な生き方だと自負しているということです。はたして本当にそうなのでしょう。おそらく誰もがそうなのでしょうが、間違いや失敗なるものはどうも同じようなことを繰り返すようです。ですから、過去のことを忘れることが大切な場合もあるでしょうが、忘れないようにする場合も必要なのかと思うのです。

▼ 1985年 5月 8日にドイツのヴァイツゼッカー大統領が連邦議会で敗戦 40年にあたって行った「荒野の 40年」という演説の中で次の様に語りました。

「過去に目を閉ざす者は、結局のところ現在にも目を閉ざす者となる」。

ドイツが過去に犯した戦争犯罪に目を閉ざして忘れようとするのではなく、まさしく自分自身の過去としてしっかりと心に刻まなければ、わたしたちに祝福された未来など与えられはしないのだと訴えたのです。

▼わたしたちも、その時は夢中であって、自分が間違っただけをしても気がつかないことが往々にしてあります。しかし、後で振り返ってみると、ようやくその間違いに気付くということがあるのです。

それは自分の罪だけではありません。神の恵みについても後で振り返ってようやく分かるということが沢山あるものです。

聖書の中にはそのような物語形式が多くちりばめられています。

例えば、創世記のヨセフは自分を売り飛ばした兄たちを憎んでいましたが、兄たちが食料を求めて自分の前にひざまずいてやって来た時に、神が飢饉に備えて私を先にエジプトに送られたのかと悟ったのでした。

▼マリヤは主イエスに会いたかったのでしょう。せめて丁寧に葬ってさしあげようと思って墓にやって来たのに、墓の中は空になっていて主イエスの姿はそ

ここにはありませんでした。誰かが盗ったか、よそへ移したに違いないと途方に暮れていると、「マリヤよ」と後ろからそっと復活の主イエスが声をかけられる。振り返ったマリヤはそこに主イエスが立っていて下さったことに気がついたのです。

今まで前に向かって空しく開いた墓の中にイエスを求めていたマリヤには、決して見えなかった復活のイエスの姿を振り返った時に見ることが出来たのです。

▼ユダヤでは「前」は過去、「後ろ」は未来を表します。前に向かってとは、過去をしっかりと見つめてということなのです。しかし、前ばかり捜しても捜し物は見つかりはしません。大切なのは、そうして過去を確認することで現在の自分の姿をよく知り、そこで初めて未来の方向を考えてゆくのです。

わたしたちキリスト者も主イエスの十字架と復活という過去の出来事を大事にします。ここに全ての人間の真の出発があると信じるからです。ここに表されている神の愛と導きこそわたしたちの慰めであり力なのです。

この愛と導きを現在に確認する作業のことを信仰というのです。そして、いつもここから復活の主イエスに促されて「後ろ」である未来を臨み行くのです。